

2016 Post Solution & Open dialogue updated, Intensive Training**ポスト・ソリューション & オープンダイアログ 集中トレーニング #4****Becoming Dialogical & Respecting Otherness in the Present Moment**

ポスト・ソリューションから、オープンダイアログへの展開を目指した体験ベースの集中研修会です。

フィンランドの西ラップランド地方で発展し、世界が注目するオープンダイアログ。クライアントとそのネットワークによる開かれた対話を介して、精神的な危機状況を乗り越えようとする画期的なアプローチです。非常に高い治療効果を示すだけでなく、対人援助の原点とも言うべき臨床哲学を基盤とした革新的な方法論として、さまざまな領域への応用が期待されています。

ポスト・ソリューションは SFA(solution-Focused Approach)を原点にしながらも、「心理療法の効果(共通)要因」の研究結果を基に構成されたコンテキスト・モデル、Scott D. Millerらが提唱する FIT(Feedback Informed Treatment)のエッセンス、そして Harlene Anderson らの Collaborative Therapy の治療姿勢を取り入れた、ソリューションのその後 (Post)、その先を見据えた、汎用的なアプローチを目指したものです。特徴としてはその焦点 (フォーカス) を、解決構築の理論や面接技法から、クライアントとの協力関係 (共同作業) や協働的コミュニケーションの在り方における、セラピスト個人としての、実践能力や臨床態度へと、シフトさせている点です。

サブタイトルに書いた”Becoming Dialogical & Respecting Otherness in the Present Moment”

「対話的である (になる) こと、瞬時的現在において (他者の) 他者性を尊重すること」は、治療の方策というよりは、人としての生き方だと捉えることで、自らの臨床家としての在り方についての、(再) 確認、変化、新たな選択の経験と、より開かれた対話的臨床へとつながるはずで

す。Post SFA、オープンダイアログのアイデア、思想、方法論は非常にシンプルで明快です。しかし頭で理解することと、現実場面で実践し、ダイナミックに使いこなす、治療効果を得ることとは、全く別の話です。臨床哲学と共にその **Art and Skill of Practice** があってこそ、治療理論や臨床姿勢が実践され、力を発揮させることができるはずで

す。既にソリューションやブリーフセラピーなどに関して一定の知識、経験をお持ちの方が対象ですが、それにこだわることなく、さらなる実践的な臨床・援助能力・姿勢のレベルアップを目指そうという方々なら大歓迎です。リアルな実践への活用・応用に結びつけるための体験実習、ライブセッションもふんだんに取り入れる予定です。

PostSFA & OD 集中研修会 案内

2016
#4

講師：白木孝二 Nagoya Connect & Share 代表
RDI® Program Certified Consultant 臨床心理士
<http://www.nagoya-connect.jp/>

日時：2016年 10月 1日(土) オープンダイアログの臨床姿勢とフィードバックの活用
10月 2日(日) ダイアロジカルな面接の体験実習 各 10:00am～5:00pm
*両日参加が原則ですが、定員に余裕があれば1日のみの参加も可能です。

会場：Nagoya Connect & Share 名古屋市東区葵一丁目4番34号 双栄ビル3F北
地下鉄東山線 新栄町下車 葵町交差点を北へ徒歩3分 詳しくは別紙地図を参照

参加対象：臨床心理、教育、医療、ビジネスなどの領域で、相談支援活動に携わっている方。ある程度、実践経験をお持ちで自分の臨床能力向上を望まれる方。

定員 12名：事前申し込みに限ります。定員を超えた場合は次回に移っていただくことがあります。(今後も2～3カ月に1回ペースで開催する予定です)

参加費：2日間で36,000円 (1日のみ参加の場合は20,000円。院生割引もあります)
参加可能の確認連絡をします。その後で振り込んでください。
振り込み先 三菱東京UFJ銀行 覚王山支店 普通口座 3603322 白木孝二

申込先：「必要事項」を記入の上、e-mailあるいはfaxにてお申し込み下さい。
E-mail: kshiraki-connect@nifty.com Fax: 052-875-5301

〔必要記入事項〕

- ① 氏名 (ふりがな)
- ② 職種、立場 (ex. 臨床心理、医療従事者、ビジネス関係 etc.)
- ③ ソリューション、ブリーフセラピーなどの経験について
- ④ E-mail アドレス (ご連絡は主として E-mail にてさせていただきます)
- ⑤ 連絡先 (自宅・職場のどちらか/住所・Tel/Fax 番号、緊急連絡用に携帯番号)
- ⑥ 領収書が必要か否か
- ⑦ 研修会に期待すること、特に取り上げて欲しいテーマなど

その他 補足事項

- ・専用駐車場はありません。車の方はコインパーキングなどをご利用ください。
- ・申し込みの際の個人情報はこの会にのみ利用し、守秘義務として管理します。
- ・昼食は各自でお取りください。飲み物程度は用意します。
- ・1日の夜は懇親会(有志)を考えています。都合が付けられる方は是非ご参加を。

講師略歴

現職 Nagoya Connect & Share 代表

RDI® Program Certified Consultant 臨床心理士

名古屋市児童福祉センター 相談課（児童相談所、児童心理司）、
くすのき学園（情緒障害児短期治療施設、セラピスト）
療育室（障害児総合通園センター セラピスト）

を経て、2007年より現職へ

1991年 米国、ウィスコンシン州、ミルウォーキーの Brief Family Therapy Center の
Residential Training に参加。Steve de Shazer, Insoo Kim Berg から直接指導を受ける。
当時在籍していた Scott D. Miller とは現在も交流がある。

1997年～2002年 日本ブリーフサイコセラピー学会 常任理事

1999年 日本ブリーフサイコセラピー学会より学会賞受賞

2005年12月 米国、テキサス州、ヒューストンの Connections Center より
RDI® Program Certified Consultant 資格取得

2016年7月～ Open Dialogue Network Japan (ODNJP) 運営委員

論文・著書（分担執筆）など

- 「ブリーフセラピー入門」 宮田敬一 編 1994 金剛出版
「解決志向ブリーフセラピーの実際」 宮田敬一 編 1997 金剛出版
「学校におけるブリーフセラピー」 宮田敬一 編 1998 金剛出版
「児童虐待へのブリーフセラピー」 宮田敬一 編 2003 金剛出版
「Steve de Shazer の業績と貢献」 ブリーフサイコセラピー研究 第14巻 2005
「心理臨床を見直す“介在”療法」 衣斐哲臣 編 2012 明石書店
「ソリューション・フォーカスト・アプローチ再訪」 東豊 編 こころの科学176号
特別企画 家族療法とブリーフセラピー 所収 2014 日本評論社
「ポスト・ソリューション(Post SFA)における私的な温故知新」
特集・「家族療法」温故知新 家族療法研究 2014 Vol. 31.No. 3
「オープンダイアログの対話実践、そして援助者の在り方について」
精神看護 2015. 11 医学書院

訳書（共訳）

- 「飲酒問題とその解決」 I・バーク、S・ミラー著 斎藤学 監訳 1995 金剛出版
「ソリューション・フォーカスト・アプローチ」 S・ミラー、I・バーク著
白木孝二監訳 2000 金剛出版
「安全のサインを求めて」 A・ターネル、S・エドワーズ著
白木、井上、井上監訳 2004 金剛出版

他

アクセス地図です。



名古屋市交通局、地下鉄路線図へのショートカット

http://www.kotsu.city.nagoya.jp/dbps_data/material/_localhost/_res/subway/_res/pdf/subwaymap.pdf